

◇友愛労働歴史館公開講演会が開催されました

テーマ「友愛会・平澤計七と亀戸事件」

－報告者 大和田茂氏（「評伝・平澤計七」共著者）

友愛労働歴史館は9月11日（水）午後、大和田茂氏（法政大学講師、『評伝平澤計七』



共著者）を招き、「平澤計七―友愛会時代から亀戸事件まで」をテーマに、講演会を開催しました。当日は友愛労働歴史館と労使研メンバーや一般参加者など約40名が参加。

講演で大和田氏は、レジュメに基づき①平澤計七とは、②友愛会以前、③友愛会時代、

④大島・純労働者組合時代、⑤総連合・統一戦線志向時代、⑥亀戸事件と平澤計七、⑦平澤の思想と評価、について約1時間40分に亘り報告。その後、参加者からの質問を受けました。

平澤計七は大正5（1916）年、友愛会（後の総同盟）本部に入り、出版部長を務めるとともに平澤紫魂のペンネームで友愛会機関誌『友愛新報』、『友愛婦人』等に数多くの小説・戯曲・コラムなどを発表しています。

この頃、棚橋小虎ら友愛会の急進化を図る人々が、鈴木文治会長や平澤らの穏健派を批判し、対立を深めていました。そして大正9年、平澤は棚橋らに弾劾され、自らが組織した城東連合会を率いて友愛会を離れ、純労働者組合を結成します。以後、友愛会と平澤は対立した形になりますが、亀戸事件が起きると友愛会は、いち早く事件の真相究明と責任追及、遺家族の救援に乗り出しています。